

か(できなかったか)」そのためには「どうすればよいか」という生徒の立場にたつ機能をもった自己評価カード(目標達成カード, 技能達成カード, 制作カード)は, 生徒には意欲をもたせ, また, 教師にとっては下位目標行動(ある目標行動を達成するためにそれ以前に形成されていなければならぬ行動をいい, 目標行動に対して必要な基礎行動である)について一人一人の生徒が到達したかどうかを診断できる資料となり, 到達できない生徒には教師指導による補完学習を, できた生徒にはその目標の範囲内でのプログラムにそった深化学習をさせる資料として大きなメリットがあることがわかった。

5. 今後の抱負

現在は, グループ分けしての補完指導と深化学習の実践にとりこんでおり, 本校の研究テーマ『各教科における基礎的・基本的事項を一人一人に身につけさせる指導法の研究』とのかかわりをもって, その成果が待たれる。

今後は, 再認識した教授, 学習活動要素のなかでの評価機能の大切さをふまえ, よい授業の実践, 理想的な指導案づくりというサークル結成時の目標に向かってたがいに個性を發揮しつつ歩み続けていこうと思っている。

補完指導, 深化指導をとり入れた指導案例 これは基本的事項「1950年代に, 冷たい戦争のなかで, 国民の民主化への努力, 経済復興への努力がみどり, 独立を回復し, 国際社会へ復帰した」(2時間扱い)の指導案である。62~64が深化, 65~67が補完指導にあたる。

時	指導内容	教材 媒体	流れ 図	注 釈
5	<ul style="list-style-type: none"> 1951 講和会議 52ヶ国参加 48ヶ国と調印 二分された国内の意見 	OHT 平和条約調印式(略) T R 平和条約調印 板書 1951. 48ヶ国と 1952. 独立二分された国内の意見・ソビエト連邦の反対		①7 サンフランシスコ平和条約の経過と内容について調べよう。 ①8 1951年9月, 52ヶ国が集って講和会議が開かれ, 日本は吉田茂総理大臣らが出席した。ソビエト連邦をはじめ, チェコ・ポーランドは条約に調印しなかった。日本国内では, 全連合団と平和条約を結んだ方がよいとする意見と, 賛成する国とだけ条約を結んだ方がよいという意見に分かれた。結局48ヶ国と戦争終了, 国交回復の条約に調印し, 1952年, 7年ぶりに独立が回復した。 ①9 いまの経過説明に質問はないですか。
9		板書 なぜ		③5 ソ連が平和条約に調印しなかったのはなぜか。 ③6 自分の考えをノートにまとめなさい。 ③7 グループで話しあいなさい。(自分の意見をのべるよう指示する)
10	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ 日本との講和をいそぐ 冷たい戦争の影響 	TP 1945 米ソ対立 冷たい戦争 1949 中華人民共和国 1950 朝鮮戦争 1951 サンフランシスコ平和条約 日本安全保障条約 1954 白根隊		④0 いま話しあったことを発表してみよう。よく聞いて, わからないところや疑問があったら質問しよう。 ④2 米ソ対立による冷戦
14				⑤9 前の時間の自分の「予想」とくらべて, もう一度, 学習課題の結論を考えてみよう。(自己評価)
15		テスト別紙		⑥1 テスト。コース分けをし, 深化学習, 補完学習をさせる。 ⑥2~⑥4 深化コース。課題「インドやビルマが講和会議に出席しなかったのはなぜか」を考えさせ, ノートにまとめさせてから, 話しあいをさせる。授業後ノートを提出させ確認する。 ⑥5~⑥7 補完コース。板書を利用して, 流れの前後関係を, 質問や発表をおりまぜては理させる。
16				⑥8 次時は, 「1955年以降, 冷戦から話しあいの政治になった世界の動き」を学習する。